

お知らせ

課名	疾病感染症対策課
担当	藤田、松岡
内線	3365、3368
直通	226-7331

今年もダニ媒介感染症が複数件報告されています（注意喚起）

県内において、今年に入り第23週（6月2日から6月8日）までにダニ媒介感染症である日本紅斑熱の患者が4人、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の患者が4人報告されています。日本紅斑熱については、県内の患者報告数が年々増加傾向にあり、昨年は過去最多となりました。また、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）については、昨年の報告数は1人のみでしたが、今年は既に4人となっています。

現在、ダニの活動が活発になる時期を迎えており、例年秋頃まで患者が多く報告されることから、次のとおり県民への注意喚起を図ります。

1 ダニ媒介感染症とは

- ・ダニ媒介感染症には、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）、日本紅斑熱、つつが虫病などがあります。これらの原因となるウイルスや細菌を保有するマダニやツツガムシに刺されることにより感染します。いずれの感染症も、重症化した場合には死に至ることがあります。
- ・重症熱性血小板減少症候群（SFTS）ウイルスは、イヌやネコなども感染するため、マダニを介さずに動物から人に直接感染する場合があります。

2 注意すべきこと

- ・予防のために一番大事なことは、ダニに刺されないことです。チラシ等を参考に予防対策をお願いします。
- ・病原体を持ったダニは、イノシシやシカなどの野生動物とともに移動します。そのため、「これまで刺されても感染しなかった場所だから今後も感染しない」というわけではありません。
- ・野山などへ入った場合、ダニに刺されていても気づかない場合があるため、ダニに刺された自覚があるかどうかにかかわらず、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が現れた場合はすみやかに医療機関で診察を受けてください。その際、ダニに刺された、もしくはダニが生息するような環境に行ったことを医師に説明してください。

（参考）

ダニ媒介感染症に関する情報・啓発チラシ掲載ページ（発生状況等は随時更新）
岡山県感染症情報センター「ダニが媒介する感染症に注意しましょう」
(<https://www.pref.okayama.jp/page/308929.html>)

ダニに注意！



ヤマアラシチマダニ（成虫）
岡山県環境保健センター提供

～ 野山に入る方へ ～

野山に生息するダニ（マダニやツツガムシ）に刺されると、**日本紅斑熱、つつが虫病、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）**などの重篤な感染症になることがあります。キャンプ、ハイキング、農作業などの際には、刺されないための予防対策が必要です。

ダニに刺されないために

- 野山では、肌が露出しないように、袖口を絞れる長袖、長ズボン、手袋、足を完全に覆う長靴等を着用しましょう。また、色の薄い服は付着したマダニを見つけやすくなります。
- 服の上や肌の露出部分に、防虫スプレーを噴霧しましょう。
- 草むらに直に寝転んだり、腰を下ろしたり、服を置いたりするのはやめましょう。

野山で活動したあとは

- すぐに入浴し、体や頭をよく洗い、新しい服に着替えましょう。
- 脱いだ衣服はすぐに洗濯しましょう。
- ペットを飼っている場合は、ダニに刺されていないか確認しましょう。

マダニに刺されたら

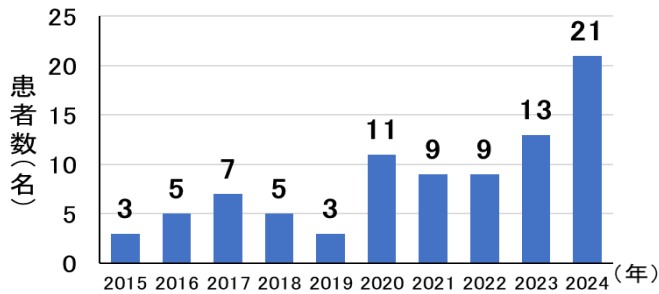
- マダニを無理に引き抜こうとすると、口器の一部が皮膚内に残ってしまうことがありますので、できるだけ医療機関（皮膚科）で取ってもらいましょう。
- 数週間程度は体調の変化に注意し、**発熱等の症状が認められた場合は、早めに医療機関（内科）を受診しましょう。**その際、野山に入ったことを伝えてください。

岡 山 県

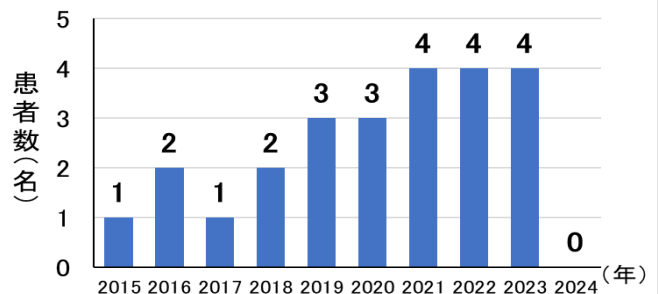


ダニ媒介感染症の発生状況(岡山県)

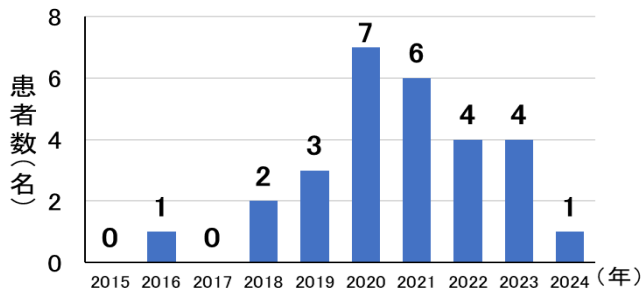
日本紅斑熱



つつが虫病



SFTS



月別の発生状況、全国の発生状況など、最新情報は『岡山県感染症情報センター』のホームページをご覧ください。

岡山県感染症情報センター

検索



SFTSウイルスは、ペットなどからも感染します

- SFTSウイルスは、犬や猫にも感染します。
- ノラ犬やノラ猫などには触れないようにしましょう。

マダニの「いろは」

マダニは、**卵→幼虫→若虫→成虫**の順に発育しますが、すべてのステージで吸血します。また、蚊に刺された時のようなかゆみや吸血にともなう痛みはほとんどありません。

幼虫



幼虫は6本足

1mm

若虫



1mm

成虫



1mm



3mm

吸血すると...

1週間程度かけて膨らみます